● 新規購入図書紹介

図　書　名	著　者	出　版
地 方 財 政		
地方財政白書　令和3年版	総務省（編）	日経印刷
ゼロからできる　自治体の財政分析	稲沢克祐	学陽書房
社 会 福 祉		
地域で取り組む　高齢者のフレイル予防	辻哲夫（編著）　ほか	中央法規
そ の 他		
非正規公務員のリアル　欺瞞の会計年度任用職員制度	上林陽治	日本評論社
統廃合だけでは対応できない！ ポストコロナ社会の公共施設マネジメント 庁舎・学校・図書館・公民館・避難所が変わる	南学（編著）	学陽書房
アフターコロナの都市計画 変化に対応するための地域主導型改革	石井良一	学芸出版社
令和3年版　環境六法　2巻セット	荘村明彦	中央法規

傘で広がる輪

6月は雨が気になる季節ですね。今年の近畿地方は、平年より3週間も早く梅雨入りとなりました。気象庁によると、昨年の梅雨入りは6月上旬で、梅雨明けが8月初めと遅く、長梅雨で降水量も例年より多い年となりました。一方、一昨年は梅雨入りが6月下旬で、梅雨明けも7月下旬と梅雨の期間が短い年でした。今年は、どんな梅雨になるのでしょうか。

さて、梅雨になると大活躍する傘ですが、傘の歴史をたどってみると、日本で傘が使われはじめたのは、古墳時代（六世紀中頃）欽明天皇の頃だと言われています。当時の傘は柄を長くした日除け傘として、儀式や外出のときに天皇をはじめ公家たちに差し掛けて使われていました。雨具として使われはじめたのは、鎌倉時代中期の頃ですが、まだまだ一般的ではなく、江戸時代に入ってから町民の間に広まっていきました。

傘といえば先日、和歌山市内のある駅で、「善意の貸し傘」のコーナーがあるのを見つけました。急な雨のとき、傘を持っていない人のために傘を置いてくれています。この善意の貸し傘は、家庭で使われなくなった傘の提供を地域の方々に呼び掛け始まったものだそうです。地域の方々が、集まった傘の状態を点検して、誰でも使えるようにしてくれています。傘を使った後は、また元の場所に返却するのですが、きちんと返却もされているようです。借りたものをきちんと返すという当たり前のことですが、和歌山らしさが垣間見えますね。

私の家にも、使わず置いているだけの傘があります。皆さんのお家にもあるのではないでしょうか。そんな傘の有効活用にもなるこういった取組が、駅だけでなく身近なところにあれば参加する人も増え、活動も広がっていくのではないかと思います。善意の輪、助け合いの輪があちらこちらに広がっていくといいですね。